

新宝物館に思う

宝物館館長 大野 照文

私は京都生まれ、京都市育ちです。十歳のころ、祖母から「あと五十年後、七百五十回忌の折には、私のことを思い出しておくれ」と言われました。その後、七百五十回忌の前年には西本願寺で「生命の歴史から命の意味を考える」と題してお話させていただきました。また、この度は、新宝物館館長を拜命、祖母の言葉に始まる不思議な御縁を感じております。

私は、生き物の進化を、化石をもとに研究する古生物学が専門ですが、京都大学総合博物館に始まって二十五年間以上博物館に係ってきました。その間、来館者の感動される姿などを見て、人の心の進化に興味を持つようになりました。その中でも、とりわけ関心を持ったのが「人の悩み」の

起源です。その起源は必ずしも解明されている訳ではありませんが、ここでは、私の考えを述べさせていただきます。なかなか業の深い話です。

今から二十五万年ほど前、私たちの祖先たちは大型の動物、例えばマンモスなどを狩猟することができるようになりました。遺跡から骨が見つかり始めることがその根拠です。すると、石器を作る人、狩りをする人など、共同作業に関わった人たちに獲物を平等に分ける必要が生じます。これに対応して、一方ではモラルという美德もこの頃生まれたようです。ところが人というものはなかなか欲深いもので、少しでも多く分け前を得たいと考えるのが人情です。そこで、人類は他の動物にはない、人の心を読む能力を進化させました。これを学者は「心の理論」と呼んでいます。これで、先手を打って人を出し抜くことができます。ところがある日、「心の理論」がうっかり、自分の心も読んでしまった。自分の内面のどろどろとした心を読んできました。これが、人の悩みの始まりだと、私は考えています。おそらく五万年くらい前のことです。悩みの中でも、物理的・物質

的なものは、科学技術や制度でかなり解決できます。こうして、解決したものを除いてゆくと、そこには、悩みの親玉が残ります。その一つが「我々は必ず死ぬ」ということです。この避けられない事実についてどう悩むのか。この問いに真摯に向かってきたのが宗教であると思います。そして、期せずして私は、その中でも優れた教えを持つ真宗高田派専修寺に御縁をいただきました。

宝物館館長として、これまで私は親鸞聖人やお弟子さんたちが残された高田派の教えの証を物理的に未来に残す新しい建物の建設のお手伝いをしてきました。

今年五月の開館の暁には、御同行の皆さんが親鸞聖人の、衆生の悩みを救う観点も含め、高田派の教えの精神のすばらしさを深め、広めてゆかれる拠点としての役割も十全に果たしてゆけるよう、微力ながらお手伝いしてゆきたいと存じます。

宗 達

宗 達 第一一八五号

法主殿来る令和五年二月十六日午後一時三十分より真宗高田派専修寺名古屋別院報恩講に御親修御親教相成る

令和四年十二月十五日

法主鈴印

宗務総長 大僧都 増 田 修 誠

宗 達 第一一八六号

法主殿来る令和五年三月二十一日讚佛会に御親教相成る
令和五年一月十七日

法主鈴印

宗務総長 大僧都 増 田 修 誠

宗 達 第一一八七号

法主殿来る令和五年五月二十一日特別法要に御親教相成る

令和五年二月十五日

法主鈴印

宗務総長 大僧都 増田修誠

宗 告

宗 告 第一一四三号

左記の通り平等院殿一周忌法会執行相成る

一、日 時 令和五年三月二十六日 速夜より同二十七日 日中まで

速 夜 二十六日 午後十二時三十分（洪鐘撞止）

晨 朝 二十七日 午前七時（同）

日 中 午前十一時三十分（同）

一、参勤者 一般寺院

一、衣 体 色衣・紋章五条袈裟・差袴着用

令和五年一月十七日

宗務総長 大僧都 増田修誠
総務 中僧都 藤田弘胤
総務 中僧都 弓削弘胤

宗 告 第 一 一 四 四 号

来る令和五年三月十八日より同二十四日まで讚佛会執行相成る

令和五年一月十七日

宗務総長	総務	総務
大僧都	中僧都	中僧都
増藤	弓	弓
田	削	削
修	弘	弘
誠	胤	胤

宗 告 第 一 一 四 五 号

来る令和五年四月六日より同十一日まで千部法会執行相成る

一、新加入者 六日、七日、八日

一、参勤者 一般寺院

一、衣 体 色衣、紋章五条袈裟、差袴着用

令和五年一月十七日

宗務総長	総務	総務
大僧都	中僧都	中僧都
増藤	弓	弓
田	削	削
修	弘	弘
誠	胤	胤

宗 告 第 一 一 四 六 号

来る令和五年四月六日 内々佛殿永代経執行相成る

令和五年一月十七日

宗 告 第一四七号

来る令和五年四月九日・十日十万人講法会執行相成る

一、参勤者 一般寺院

一、衣 体 色衣、紋章五条袈裟、差袴着用

令和五年一月十七日

宗務総長	総務	大僧都	増	田	修	誠
	総務	中僧都	藤	谷	知	良
	務	中僧都	弓	削	弘	胤

宗 告 第一四八号

来る令和五年四月十一日午前十一時より戦没者追弔法会執行相成る

一、参勤者 一般寺院

一、衣 体 色衣、紋章五条袈裟、差袴着用

令和五年一月十七日

宗務総長	総務	大僧都	増	田	修	誠
	総務	中僧都	藤	谷	知	良
	務	中僧都	弓	削	弘	胤

宗務総長	総務	大僧都	増	田	修	誠
	総務	中僧都	藤	谷	知	良
	務	中僧都	弓	削	弘	胤

宗 告 第一一四九号

来る令和五年五月二十一日より二十八日まで特別法要執行相成る

五月二十一日より二十四日 開山親鸞聖人御誕生八五〇年・立教開宗八〇〇年

五月二十五日より二十七日 中興上人五〇〇年忌

五月二十八日 聖徳太子一四〇〇年忌

一、日中法会 午前十一時

一、参勤者 一般寺院

一、衣 体 色衣・紋章五条袈裟・差袴

令和五年二月十五日

宗務総長	宗務	総務
大僧都	中僧都	中僧都
増	藤	弓
田	谷	削
修	知	弘
誠	良	胤

任 免

令和四年十月十日

名古屋別院世話方を委嘱する

名古屋別院

野下富美雄

令和四年十一月三十日

依請解其職

侍者

小原 典敬

令和四年十二月一日

依請解其職

法主褒賞選考委員

永 滋雄

法主褒賞選考委員を命ずる

智慧光院住職

玉樹 真祥

令和五年一月九日

侍者を命ずる

安樂寺住職

吉田 教仁

令和五年一月十二日

任 神戸別院副輪番

西運寺住職

福田 洋山

任 神戸別院副輪番

真永寺住職

橘 徹心

組長交代

令和四年十二月三十一日

依請解其職

三重第二十六組組長

中山 等史

令和五年一月一日

三重第二十六組組長を命ずる

願證寺住職

鈴木 孝章

身分堂班

令和五年一月四日

列 其身一代堂班

院家首席二等

院家首席一等

准上座格三等

常念寺副住職

野村 涼成

褒賞

令和五年一月十五日

法主褒賞

本寺専修寺
南松寺住職
(故)櫻木谷勝道
長岡 辰夫

一月御影堂常在説教(晨朝)

布教任命

修正会御繙御書(日中)

一・一

権中僧都 水沼 秀明

修正会

一・二

晨朝 権少僧都 真置 信海

一・三

日中 中僧都 弓削 弘胤

一・三

晨朝 少僧都 千草 篤昭

一・三

日中 中僧都 藤谷 知良

一・四	律 師	隆 妙灑
一・五	少 僧 都	青 木 妙法
一・六	権中僧都	里 榮 秀教
一・七	権中僧都	藤 田 正知
一・八	権少僧都	真 置 信海
一・九	律 師	堤 一真
一・一七	律 師	隆 妙灑
一・一八	権中僧都	中 村 宜成
一・一九	少 僧 都	岡 知 道
一・二〇	権中僧都	安 藤 章 仁
一・二一	律 師	若 林 妙 百
一・二二	権中僧都	田 中 明 誠
一・二三	大 律 師	北 畠 大 道
一・二四	権中僧都	鷲 山 了 悟
一・二五、二六	中 僧 都	青 木 義 成
一・二七	権大僧都	浦 井 宗 司
一・二八	律 師	田 中 唯 聴
一・二九	権中僧都	田 中 明 誠
一・三〇	大 律 師	高 島 光 憲
一・三一	少 僧 都	上 田 英 典

一月御影堂常在説教(速夜・日中)

一・七 速夜 律師 水谷 忍英
一・八 日中 権少僧都 高藤 英光

二月御影堂常在説教(晨朝)

二・一 権中僧都 里榮 秀教
二・二 権中僧都 藤田 正知
二・三 少僧都 青木 妙法
二・四 大律師 北島 大道
二・五 大律師 北島 大道
二・六 権少僧都 真置 信海
二・七 権中僧都 中村 宜成
二・八 権大僧都 戸田 栄信
二・九 少僧都 岡 知道
二・一〇、一一 権中僧都 田中 明誠
二・一二 律師 若林 妙百
二・一三 権中僧都 中村 宜成
二・一四 権中僧都 鷺山 了悟
二・一五 中僧都 青木 義成
二・一六 権中僧都 安藤 章仁
二・一七 大律師 高島 光憲
二・一八 律師 田中 唯聴

二・一九

二・二〇

二・二一

二・二二

二・二三

二・二四

二・二五

二・二六

二・二七

二・二八

二月御影堂常在説教(速夜・日中)

二・七 速夜 少僧都 山中 真論
二・八 日中 権中僧都 藤浦 弘導
二・九 速夜 中僧都 青木 義成
二・一〇 日中 律師 水谷 忍英
二・一五 速夜 権少僧都 高藤 英光
二・一六 日中 権少僧都 高藤 英光
高田慈光院 月例会
一・二六 権少僧都 真置 信海
二・一〇、一六、二六 権中僧都 田中 明誠

律師

権中僧都

律師

中僧都

権少僧都

少僧都

律師

権大僧都

権大僧都

大律師

山中 久行

村上 英俊

隆 妙灑

佐藤 弘道

真置 信海

上田 英典

隆 妙灑

浦井 宗司

浦井 宗司

北島 心淳

報徳園 月例法会

一・一五
二・一五

権少僧都 真置 信海
権少僧都 高藤 英光

一・十 三重県津市芸濃町雲林院 林光寺前住職 藤本 義寛
贈 中僧都
一・二十九 三重県松阪市井村町 井福寺前住職 高松 蓮丸

敬 弔

次の方々が御往生なさいました。謹んで敬弔の意を表します。

令和四年

十二・十三 三重県鈴鹿市国府町

要泉寺前住職 織田 信海

一・二十二 三重県鈴鹿市須賀

林昌寺住職 花満 慧真

贈 大僧都

贈 中僧都

一・二十九 福島県南会津郡南会津町

自源寺前坊守 斎藤ミツエ

十二・十九

三重県津市一志町高野 光臺寺坊守 高野 妙雲

令和五年

一・八 三重県津市栄町

善徳寺前住職 山川 真光

贈 権少僧都



宗門のお知らせ

報恩講懇志芳名

本年度の報恩講（お七夜）例年通り一月九日より十六日御満座まで御執行成り、念仏相続の喜びを充分に味わう事ができました。

ご懇志芳名を左のとおり記載し感謝の意を表します。年に一度のご正忌です。祖徳を偲び来年も懇念をよせられます様お願いします。

本寺専修寺
 名古屋別院
 北海道別院
 関東別院
 横浜別院
 三重第一組西部
 智慧光院 玉保院
 三重第一組東部
 成願寺 勝樂寺
 明覚寺 慈光寺

慈智院 厚源寺
 浄泉寺 浄蓮寺

三重第二組甲部東

東海寺 信行寺 長安寺 万年寺
 大円寺 善行寺 満願寺

三重第二組甲部西

浄光寺 隨宏寺 誓教寺 妙教寺

啓運寺 浄泉寺

三重第二組乙部

法流寺 願正寺 實相寺 長久寺

真樂寺 西源寺 豊久寺

三重第三組

延命寺 浄誓寺 南昌寺 光澤寺

潮音寺 積善寺 深正寺 善徳寺

心覚寺 報恩寺 彰見寺 上宮寺

三重第四組

善休寺 西勝寺 泰應寺 清雲寺

願成寺 勝鬘寺 慈相寺

三重第五組

法泉寺 光徳寺 仲安寺 圓照寺

浄蓮寺 西方寺

宗門のお知らせ

三重第六組北部

圓福寺 本樂寺

甚國寺 金剛寺

三重第六組東部

明照寺 法性寺

永福寺 常蓮寺

三重第六組西部

称名寺 萬徳寺

寶積寺 青巖寺

義明寺 田仲寺

三重第八組

三縁寺 轉輪寺

明通寺 淨福寺

本照寺

三重第九組西部

圓淨寺 善福寺

淨見寺 西蓮寺

三重第九組東部

光現寺 唯信寺

西生寺

唯称寺

善導寺

光輪寺

大誓寺

正福寺

西方寺(中)

西福寺

信行寺

真性寺

常照寺

迎接寺

長盛寺

西樂寺

献忠寺

大安寺

涅槃寺

照安寺

普賢寺

三重第十組

清光寺 千福寺

常照寺 正福寺

採蓮寺 善性寺

三重第十一組東部

淨泉寺(天印) 西光寺

柳含寺 満昌寺

三重第十一組西部

西念寺 光福寺

福専寺 延命寺

三重第十二組東部

来迎寺 来岸寺

明顕寺 縁生寺

常樂寺 松仙寺

三重第十二組西部

龍光寺 常照寺

三重第十三組

正福寺 澄源寺

光雲寺 淨源寺

三重第十四組

淨芳寺

延壽寺

信蓮寺

因誓寺

寶田寺

光臺寺

東光寺

淨明寺

淨福寺

本光寺

光善寺

佛照寺

安樂寺

清芳寺

西念寺

成覚寺

新立寺

西性寺

宗門のお知らせ

長徳寺	光明寺	正全寺	報国寺	三重第十八組	龍泉寺	蓮光寺	正泉寺	光源寺
宝林寺	恵日寺	称名寺	正法寺	興正寺	成満寺	願誓寺	来教寺	
西林寺	蓮光寺	西蓮寺	伝福寺	立法寺	聖洞寺	中山寺		
法光寺	松原寺	来照寺	正運寺	三重第十九組甲部				
三重第十五組				輪崇寺	蓮生寺			
常福寺	光善寺	明林寺	光圓寺	三重第十九組乙部				
清福寺	本覚寺	善性寺	福泉寺	大雲寺	願行寺			
誓昌院	永信寺	法善寺	西徳寺	三重第二十組				
西信寺				常超院	信最寺	万性寺	正覚寺	
三重第十六組南部				栄信寺	法泉寺	浄福寺	大蓮寺	
福萬寺	善照寺	青蓮寺	西生寺	顕正寺	西光寺	欣浄寺	誓元寺	
西願寺	浄国寺	浄福寺		誓覚寺				
三重第十六組北部				三重第二十一組東部				
保智院	海善寺	真念寺	光善寺	信福寺	正行寺	法林寺	真永寺	
三重第十七組北部				養元寺	三誓寺	高山寺	宣隆寺	
玉泉寺	深廣寺	一乗寺	法雲寺	正源寺				
西岸寺	正福寺	本念寺	乘願寺	三重第二十一組西部				
三重第十七組南部				光明寺	勝光寺	本立寺	林昌寺	
教安寺	心光寺	西願寺	唯願寺	本浄寺	光福寺	念聲寺	崇徳寺	
願正寺								

宗門のお知らせ

愛知第三組	万福寺	浄泉寺	幸連寺	海隣寺	東京	壽林寺	正福寺	永福寺	林柔寺
法性寺	妙法寺	眞福寺			願信寺				
愛知第四組	蓮教寺	明德寺	常照寺	教圓寺	栃木	遍照寺			
万徳寺					滋賀県	流泉寺			
愛知第五組	満性寺	蓮珠寺	祐傳寺	浄泉寺	京都	大仙寺	榮眞寺		
愛知第六組	東泉寺	教聖寺	善明寺	祐福寺	大阪	一乗寺	正覚寺	聖賢寺	大乘寺
徳林寺					福井第二組	大願寺	稱名寺(疊)	寶幢寺	稱名寺(塙)
愛知第七組	聖眼寺	西藏寺	願成寺		北海道	眞浄寺			
愛知第九組	西蓮寺	妙源寺	松林寺(叢)	松林寺(名臺)	長正寺	高山寺	専誠寺	弘専寺	
静岡	光福寺				誠満寺	眞高寺	莊嚴寺	浄光寺	
神奈川					願勝寺				
常専寺									

お七夜はたちの集い

本年は都合により中止いたしました。

お七夜婦人連合会

一月十一日お七夜婦人連合会が多くの参詣のもと御影堂に於いて開催されました。

今年も式典も執り行われ、法主殿よりお言葉を賜りました。その後、速夜勤行に参詣して岡崎市蓮珠寺住職安藤純海師のお説教を聴聞しました。聞くことの大切さなどを学び、お七夜婦人連合会を終了いたしました。

お七夜坊守会

一月十二日に開催されたお七夜坊守会には、十名の参加をいただきました。

昨年同様に、はじめに速夜参詣をいたしました。その後、速夜の説教師であった金森顕宏師を第一会議室にお招きして、アンケートなどを元に座談会を開きました。質問に答えていただき、より詳しくみ教えを紐解いていただきました。

お七夜婦人連合会初夜参詣

一月十五日にお七夜婦人連合会初夜参詣が行われました。

今年も三重県各地から集われた婦人連合会の方々以外にも、一般の同行様や竹あかりを観賞に来られた参拝者も加わって、初夜が始まる午後四時

三十分には数百人が御影堂に集まりました。

初夜勤行では法主殿が報恩講式の初段・二段・三段を御通読されました。続いて鈴鹿市隨願寺住職松山智道師のお説教を聴聞して午後七時前に法会が終了しました。

今年のお七夜はおおむね暖かい日が続き、帰りに竹あかりを観賞される方々の笑顔が印象的でした。

お七夜子ども大会

本年は感染症拡大状況を鑑み、お七夜子ども大会を中止いたしました。

ののさまを描こう展

今年は十四園から三五五点のご参加をいただき、

園児たちの愛らしいののさまに心癒されました。その様子はYoutubeにてしばらく公開しております。

お七夜献書展

今年は一八四点の出品があり、例年通り廊下に展示しました。毎年甲乙付け難い素晴らしい作品が集まりました。また、今年も子ども大会を中止したため表彰式は行わず、各賞は直接教室ごとにお渡ししました。

お七夜青年会

本年のお七夜青年会は一月十日に開催しました。本年は初心者出勤講習として、青年会事務局が主体となり、初めての方でもお七夜に出勤出来るようにと法式作法や衣体の畳み方等の研修を行いました。その後初夜へ出勤しました。

責任役員会

一月十三日御影堂にて十一時四十五分より、法主殿御臨席のもと開催されました。

各寺院の責任役員約百七十名参加の中、法主殿のお言葉をいただき、宗務総長挨拶、山政報告・特別法要事務局長より説明を行いました。

法主褒賞授与式

一月十五日お日中後、法主殿・法嗣殿ご臨席のもと、法主褒賞授与式が執り行われました。本年の受賞者

・栃木県真岡市高田

本寺専修寺

長岡

辰夫 氏

・東京都練馬区

南松寺住職

(故) 櫻木谷

勝道 師

のご両名に法主殿より表彰状と副賞が授与されました。

長岡氏におかれましては本寺専修寺総代・責任役員を務められ、二世真仏上人七百五十年忌三世顕智上人七百年忌大恩会をはじめ、数多くの法会の実行委員長を務められるなど宗門に多大な功績を残されました。

櫻木谷師におかれましては令和二年十二月一日関東別院輪番に就任し、別院の護持発展に尽力されるなど宗門に多大な功績を残されましたが昨年九月三日に往生の素懷を遂げられました。

ここに受賞されました皆様のご功績を称え、心よりお祝い申し上げます。

中学生教化合宿のお知らせ

本年は三期ぶりの開催を予定しております。三月二十九日から二泊三日の日程で本寺をはじめ信州善光寺にも参拝いたします。

締め切りは令和五年二月二十八日(火)です。

詳細は高田本山HP「イベント・お知らせ」を参照、もしくはは教学課までお尋ねください。

写生大会のお知らせ

三月十八日(土)～四月二日(日)まで写生大会を行ないます。期間中、午前九時から午後三時まで宗務院での受付となります。

応募作品は四月八日(土)から五月五日(金)までお対面所にて展示いたします。

尚、四月二十三日(日)に予定しておりました花まつりは、都合により中止いたします。

興学布教研究大会のお知らせ

四月二十九日(土)十時より高田会館ホールにて興学布教研究大会を開催いたします。

開会式を行なった後、三名の方に発表していただきます。

発表者	法性寺	住職	真置 徳海 師
発表者	聖洞寺	住職	島 義恵 師
発表者	大円寺	住職	高島 光憲 師

尚、感染症の状況により内容変更、または中止となる可能性があります。

檀信徒研修会のお知らせ

春の檀信徒研修会を、四月十七日に開催します。講師に正念寺住職 梅林久高師をお迎えして聖徳太子のお話をいただきます。また、本山の太子堂内を特別に公開し、教林寺住職で太子像の作者でもある三浦世雄師から解説いただきます。詳細は別途御案内をご確認ください。

同和問題に取り組む会 報告

令和四年一月～十二月

定例会 一月～三月中止・四月十八日

五月二十四日・六月十四日

七月二十二日・九月十二日

十月二十日・十一月十五日

十二月十九日

・教団内の人権意識を高める啓発、施策

・機関誌『同朋』NO十三号の発刊(三月)、

NO十四号の編集

・部落解放研究三重県集會

(一月十五日三重県総合文化センター)

・三重同宗連後期研修會

(三月十六日環境未来館)

・第四十二回同宗連總會

(四月十六日浄土真宗本願寺派宗務所)

・三重同宗連代表者會議

(五月十三日 曹洞宗三重県第一宗務所)

・基本法みえ講演會

(六月十三日 県人権センター)

・三重同宗連總會

(七月七日・真宗大谷派三重教務所)

・三重同宗連前期研修會

(七月七日・真宗大谷派三重教務所)

・三重同宗連代表者會議

(十一月十八日・真宗大谷派三重教務所)



宗門のお知らせ

本山行事予定

(三月・四月)

三月十八日～二十四日

讚佛会

三月十八日～四月二日

写生大会

三月二十六日～二十七日

平等院殿一周忌法会

三月二十九日～三十一日

中学生教化合宿

四月六日～十一日

千部法会

四月九日～十日

十万人講法会

四月十一日

戦没者追弔法会

四月十七日

第七十二回檀信徒研修会

四月二十三日

花まつり

中止

四月二十九日

興学布教研究大会

下付金のお知らせ

平成二十八年度分院号下付金、及び納骨壇加入下付金を専修寺正味財産に計上いたしました。

(令和四年五月三十一日付)

院号冥加金、及び納骨壇加入冥加金の下付金は納入された年度から、五年を経過したものは、専修寺正味財産に計上されるため、交付出来ませんのでご注意ください。

詳しくは宗務院財務課までお尋ね下さい。

真宗高田派共済会のご案内

●全寺院対象の共済制度●

真宗高田派共済会運営規程による各種制度

○見舞金

- ・本堂全焼及び全壊 100万円
- ・本堂半焼及び半壊 60万円
- ・庫裏全焼及び全壊 60万円

* 災害を証明する書類が必要

・境内地並境内建物が災害を被った時は、2万円をお見舞いする
(追加されました)

* 被害総額が100万円以上の場合となります

○祝金

- ・本堂新築及び改築 60万円
- ・本堂を除く境内建物の新築および改築 10万円

* 工事費が1千万円以上の場合となります

* 高田派代表役員が発行した新築・改築の承認書と
工事契約書の写しが必要

○香料(住職の死亡から6ヶ月以内に申請のこと)

在任期間により給付金が異なります

- ・住職在任40年以上 50万円
- ・住職在任30年以上40年未満 40万円
- ・住職在任20年以上30年未満 30万円
- ・住職在任10年以上20年未満 20万円
- ・住職在任10年未満 10万円

○住職退職慰労金(退職から6ヶ月以内に申請のこと)

上記死亡の場合を適用する

○真宗教学奨学金(毎年4月末日までに申請のこと)

- ・高等学校生及び真宗各派の専修学院生 月額 2万円 若干名
- ・大学生及び大学院生 月額 4万円 若干名
- 月額 8万円 若干名
(追加されました)

○奨励金(毎年4月末日までに申請のこと)

共済会が指定した学校学部にて得度した者が入学したときに

4万円を支給します。

給付及び申請のお問い合わせは、下記の共済会担当までお尋ねください。

真宗高田派共済会 真宗高田派宗務院内

電話 059-232-4171 FAX 059-232-1414

安心・安全にご参拝いただくために



参拝の皆様へ【お願い】

- ・参拝の際はマスクの着用をお願いします。
- ・会話の声量は控えめに。
- ・密集を避けるため、お互いに間隔を広くとってください。
- ・検温、アルコール消毒にご協力ください。
- ・境内飲食厳禁。飲食エリアをご利用ください。

あらかじめ、ご承知おきください

- 発熱（37.5℃以上）や咳・のどの痛みなど新型コロナウイルス感染が疑われる症状のある方、濃厚接触者の方は入場をお断りする場合がございます。

人権擁護啓発活動重点項目

- 一、国際時代にふさわしい人権意識を育てよう。
- 一、子どもの人権を守ろう。
- 一、高齢者の人権を尊重しよう。
- 一、病気・部落などによる差別をなくそう。
- 一、障害者の完全参加と平等を実現しよう。

令和五年二月二十日印刷
令和五年二月二十日発行

三重県津市一身田町二八一九番地
電話(〇五九)二三三二四一七一
<http://www.senjui.or.jp>

真宗高田派本山専修寺

発行所 宗務院

振替〇〇一五〇一〇一五一九四番

三重県津市一身田町七六五番地

印刷所 相和印刷所

電話(〇五九)二三三二二〇七〇